

7 月度土曜例会 (2015/7/18)

「小さな国の壮大な歴史」

多様なポルトガルの魅力を紹介

ルイ フォンセカ
Rui Fonseca さん

この日のスピーチはポルトガルから来日中のルイ フォンセカさん(23)。タイトルは” Portugal : small country, huge history”。欧州の西の端に位置し、何度も異民族や他国による侵入・侵略にさらされ、文化、宗教の融合を繰り返した後、王国としての独立を果たした後は、ヨーロッパの大航海時代の先駆けとなり、海路、東アジアにまで到達。日本にも大きな影響をもたらしました。そんな壮大な歴史と、そこから生まれたポルトガルの多様なおもしろさを語ってくれました。



ルイさんは、多くの歴史遺産とポートワインで有名なポルト出身で、ポルト大学工学部修士課程の学生。ヴルカヌス・プログラム(日欧の理工系学生を対象とした双方向の奨学金付き企業インターンシップ)で来日。約1年、日本語を学び、企業で働いています。理系の人ですが、映画、スポーツ、読書のほか、歴史にも強い興味を持ち、映像を使って要旨、次のように説明してくれました。

ポルトガル

正式にはポルトガル共和国。人口約 1 千万人。国土は約 9 万 2000 平方^キで日本の4分の1ほど。首都はリスボン。ローマカトリックの国で、1986 年(当時は EEC) から EU の一員。

歴史

ポルトガルには、ネアンデルタール人の時代から人が住んでいた痕跡があり、ホモサピエンス(原生人類)も 3 万 5000 年も前に登場、1 万年以上前の人類が描いたとされる動物、人などの岩絵が残っており、ユネスコの世界遺産になっている。





初代ポルトガル王
アフォンソ・エンリケス

開始、868 年、後にポルトガリア伯爵と呼ばれたフランス貴族がイスラム教徒から北部のポルト地方を奪還。レコンキスタ（国土回復運動）が起こり、徐々にイスラムから領土を取り返し、1143 年、同伯爵の息子、アフォンソ・エンリケスがキリスト教徒によるポルトガル王国を建国した。

15 世紀に入ると、ポルトガルは、攻める立場に変わり、北アフリカのセウタを征服、このころから大発見時代（日本では大航海時代という）に入り、1498 年、バスコダガマがアフリカ南岸からインドに到着した。Caravel 船、Nau 船など頑丈で性能の良い船が建造され、イスラムから流入した羅針盤のほか、天文学、地理学、数学なども発達。長い大航海を可能にし、ブラジル、モザンビーク、ティモール、マカオ、台湾、そして 1543 年、日本の種子島に到着した。

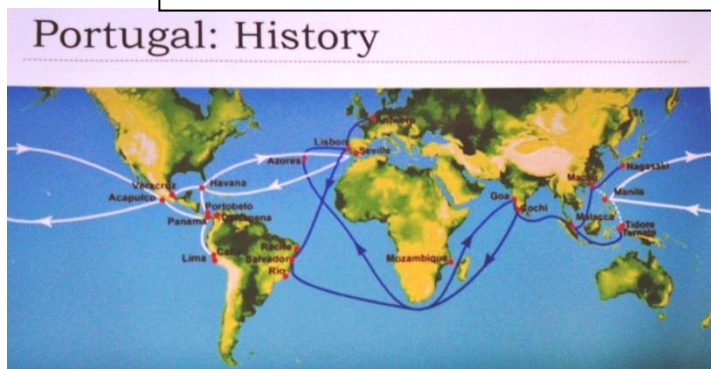
紀元前 1200 年頃、地中海の東、アジアのフェニキアが、次いでギリシャ人がこの地にやってきて交易のため植民、アフリカ北部からもカルタゴ人がイベリア半島に侵入し、一部地域を植民地化した。やがて、ローマが強大になり、紀元前 2 世紀にはスペインも含めたイベリア半島が支配下に入った。ローマ帝国が衰退し始めた 5 世紀には、欧州中央部からゲルマン民族が侵入。スエヴィ王国、西ゴート族による西ゴート王国などが生まれたが、8 世紀にはジブラルタル海峡を渡ってきたムーア人（北アフリカのイスラム教徒）によって占領され、その後、400 年近い支配を受けた。

優れた文化と比較的穏やかな統治を行っていたムーア人だが、異民族の支配を潔しとしないキリスト教徒はやがて、反攻を



- ▶ Caravel: agile and easy to navigate
- ▶ Nau: Large ship, primarily merchant ships

優れた帆船と航海術を駆使して、ポルトガルは世界の海へ（青線）、スペインは西へ（白線）



この時、鉄砲が伝来し、戦国時代の戦い方を一変させた。以後、南蛮貿易も始まり徳川幕府による鎖国まで交流が続いた。その名残で、今でもコンペイトウ、カステラ、タバコ、パン、ビロードなどのポルトガル語が使われている。



ジェロニモス修道院とベレンの塔

ポルトガルは大航海時代に巨大な財力を蓄えたが、産業育成への投資はほとんど行わず、多くの立派な建造物を建てた。マフラ宮殿、ジェロニモス修道院とベレンの塔、

ペナ宮殿など。

1581 年になると、スペイン王がリスボンを占拠し、ポルトガル王を兼ねる同君連合の状態に。その後、独立を勝ち取ったものの 1755 年、大地震でリスボンの町が壊滅状態になり、

1807 年には、ナポレオン戦争の余波を受け、王室は植民地のブラジルに逃れた。まもなく、そのブラジルが独立してしまったため 1910 年、王室は倒れ、共和制に移行したものの、ファシスト政権が 40 年も続き、アフリカ諸国は次々、独立。1999 年、マカオも中国に返還して、すべての植民地を失った。

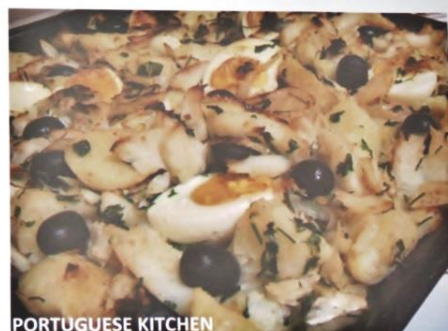
魚介類の料理

料理

大西洋に面する国だけに、日本と同様、魚介類を多く使う料理が多い。野菜やフルーツも豊富でデザートは非常に豊富。

Portugal: Cuisine

▶ Fish and seafood



PORTUGUESE KITCHEN

音楽

Portugal: What to see/do

▶ Porto: 2nd biggest town in Portugal

ポルトの町並み



Fado (ファド) がポルトガルの民族歌謡。「運命」という意味をもつといわれる。リスボンの下町などで社会の底辺に生きた人たちが、つらい生活の中で歌っていた大衆的な音楽で、失われたものに対する悲しみ、郷愁などの感情を

表現しているとされる。が、最近、学生たちが歌うファドには明るい調子のものも多い。

スポーツ

ポルトガルでスポーツといえばなんといってもサッカー。サーフィンも盛ん。ナザレの海岸では高さ 30 メートルもの巨大な波が押し寄せることから多くのサーファーが訪れる。

観光名所

名所は多い。最北部には自然豊かなベネダ国立公園がある。ドウロ川河口の丘



マフラ国立宮殿(修道院)

陵地帯に広がるポルトの街にはクレリゴス教会、大聖堂、ボルサ宮など歴史的建造物が多い。ドウロ川沿いのぶどうの里も有名。

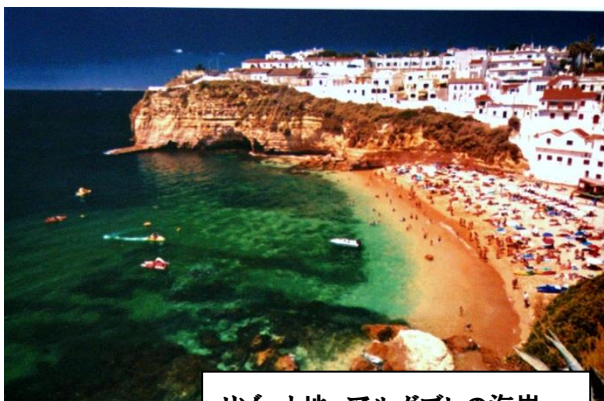
首都リスボンにはエンリケ航海王子 500 回忌を記念して、大海に乗り出す勇壮な帆船をモチーフにした「発見のモニュメント」が 1960 年に建造された。エンリケ王子を先頭に航海者が並んでおり、後尾には日本各地を伝道したイエズス会宣教師、フランシスコ・ザビエルの像もある。

河口を守る要塞として 16 世紀に造られたベレンの塔も有名。世界最古の本屋さんも残っている。

美しい海岸とエメラルド色の海が広がる南部のアルガブレ地方では夏になると欧州各国から観光客が訪れる。

美しい海岸とエメラルド色の海が広がる南部のアルガブレ地方では夏になると欧州各国から観光客が訪れる。

ルイさんは、ポルトガル人気質として、伝統的・保守的、正直・純粋、funny,



リゾート地、アルガブレの海岸

Hospitable とともに、modest and shy（日本人と似ている！）などを挙げた。



ルイさんによると、ポルトガルの文化は、異なる文明が 1000 年にわたって織りなしてきた流れの中から生み出されたもの、ということです。民族歌謡、ファドの起源についても、もともとポルトガルにあったという説、ブラジルから来たとする見方、いや、イスラムが起源だとする意見まで諸説あります。多様な文化が融合したポルトガルの文化は、知れば知るほど面白そうです。



世界最古のリスボンの本屋さん